

## 教員採用選考検査に向けた人物評価試験対策講座に関する実践報告

針谷 美智子<sup>1)</sup>・坪川 麻樹子<sup>2)</sup>・上田 純平<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

<sup>2)</sup>新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科

### 〈概 要〉

本学教職支援センターでは、教員採用選考検査を受検する学生を主な対象として、人物評価試験対策講座を開講している。2020年度は、コロナウイルス感染対策のため人物評価試験対策講座のスペシャル講座を対面形式とオンライン形式を組み合わせてハイフレックス方式で開催した。スペシャル講座では、他者の指導を見ること、他者の面接を評価することを通して、個別指導では経験できない学びを深めることができる。また、オンライン形式での開催によって、遠方に住む学生や卒業生も参加することができ、より多くの受検者が参加することができた。本報告書では、ハイフレックス形式での講座開催における取り組みについて紹介し、その成果と課題について報告する。

### 〈キーワード〉

教員採用選考検査対策講座の充実 オンデマンド講座の工夫 ICT機器の活用

#### I. はじめに

本学教職支援センターでは、教員採用選考検査（以下、採用選考とする）試験を受検する学生を対象に各種の対策講座やイベントを開催している。本稿は、2020年度に実施した人物評価試験対策及びスペシャル講座に関する取り組みを報告するものである。

採用選考における人物評価試験とは、個人面接や集団面接を通して、受検者の適性や資質、教師としての立ち居振る舞いや指導力を評価するものである。この人物評価試験は、本学学生が受検するほぼ全ての自治体で行われている。特に、本学学生が多く受検する新潟県では、第二次検査において個人面接Ⅰと個人面接Ⅱの2種類の面接があり、評価得点も高いため対策指導を通しての面接練習が欠かせないものとなる。

このため本学では、採用選考を受検する学生を対象に例年6月下旬から9月中旬にかけて人物評価試験対策の講座（以下、人物試験対策とする）を開講している。2019年度に対策講座を受けた学生のアンケート結果によると「本番を想定した練習ができ、本番でも発揮することができた。」「自分に不足している点を的確に指導してもらい、有意義な対策指導を受けることができた。」など満足度の高い指導が受けられているようである。

また、新潟県の第二次検査直前には、スペシャル

講座と称したイベント（以下、スペシャル講座とする）を行っている。スペシャル講座は、個人面接や模擬授業、場面指導及びその後の指導を公開形式にて行う特別講座である。公開指導を受ける学生は、選考検査本番と同様に、面接や模擬授業、場面指導に臨み、その様子を他の学生及び教員が見学する。面接終了後、教員の指導を中心に見学の学生も含めて全員で振り返りを行いつつ、指導内容を共有する。これまでスペシャル講座で指導を受けた学生からは、「多くの方からの意見をもらえたので、自信につながった。」「大人数の前での発表だったことで、本番はあまり緊張せずに話すことが出来た」「自分の改善点などを見つけることができた。」などの感想があり、有意義なイベントになっている様子が伺える。

上記に述べたとおり、学生にとって有意義なイベントであるが、2020年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面形式でのスペシャル講座をどのように開催するかが課題とされた。

以下では、人物試験対策の特にスペシャル講座について取り組みを紹介するとともに、その成果と課題について報告する。

## II. 人物試験対策の概要

### 1. 人物試験対策及びスペシャル講座の開講期間及び対象

#### 1) 期間

2020年6月22日～9月11日

スペシャル講座 2020年8月5日 3～4限

#### 2) 対象

健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科の4年生、大学院生及び卒業生 計27名（内訳：在学生21名、大学院生1名、卒業生5名）

スペシャル講座参加者 計18名（内訳：対策指導を受ける学生4名、見学のみの学生14名）

### 2. 本講座の目的及び目標

本講座では、採用選考に向け、個人面接や模擬授業及び場面指導等の口頭試問を想定し、口頭試問にて自己のアピールや志望動機、面接での所作等について、実践を通して高めていくことを目的とする。この目的を踏まえ、以下1～2の習得を目指す。

1. 教員としての資質や能力等を有し、面接にて適切に受け答えすることができる。
2. 学習指導や生徒指導等に関する基礎的知識を有し、面接にて適切に受け答えすることができる。

### 3. スペシャル講座の実施方法

例年、スペシャル講座は対面形式にて開講しているが、2020度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、形式を変更して行うこととなった。具体的には、以下のとおりである。

#### 1) 対策指導を受ける学生の指導形態

対策指導を受ける学生は、対面形式にて指導を受けることとした。大学内にある教室を使用し、面接官役の教員2名もしくは3名から口頭試問及び指導を受けた。一人当たりの持ち時間は30分間とし、最初の20分間を個人面接または模擬授業、残り10分間は教員からの指導を受ける時間とした。対策指導を受ける学生の受検校種の内訳は、小学校教員を目指す学生2名、中学校保健体育科教員を目指す2名、計4名であった。

#### 2) 見学学生による視聴形態

見学のみを希望する学生（以下、見学学生とする）は、面接及び指導の様子を学生の自宅等からZoomを通して視聴することとした。教室内にビデオカメラを2台設置し、面接の様子を斜め前方から観察できるようにした。また、学生と面接官の間に集音マイクを1台設置し、学生と面接官の両者の音声聞こえるようにした（図1）。



図1 対策講座の会場イメージ図



図2 対策講座の会場の様子



図3 オンデマンドでの視聴の様子

### 3) 学生同士でのフィードバック

見学学生は、対策指導を見学した後、面接及び指導の様子から気がついたことや感想をフィードバックすることとした。1名の指導が終了後、5分程度の時間を設け、下記視点に沿ってフィードバックを行い、Zoomのチャット機能を用いて共有した。

なお、フィードバックの視点は、①所作（振る舞い、目線／眼力、声量／声の張り、言葉遣いなど）、

②回答内容（個人面接：質問事項に関する見識、表現力、判断力、意欲・情熱など、模擬授業：理解度、判断力、表現力、意欲・情熱、発問力、板書（構成）など）、③総合、その他であった。

### Ⅲ. 面接指導の様子及び学生同士のフィードバックの内容

#### 1. 学生Aの対策指導の様子

学生Aは、小学校を志望している学生であり、個人面接の対策指導を公開にて行った。面接官から受検自治体の教育理念や求める教師像についてや児童の生活指導に関する質問があり、一つ一つ丁寧に回答している様子がみられた。

学生からのフィードバックを一部紹介する。

〈所作について〉

- ・声量が出ていて、話すスピードも速くなく聞き取りやすかった。背筋がしっかりと伸び、終始崩れることなくとても良い印象であった。
- ・質問者の方にきちんと体を向けていてとても良かったと思います。緊張されているのだなと思いましたが、きちんと答えようとしているのが伝わってきて良かったと思います。
- ・明るい笑顔がとても好印象で、発言もハキハキしていた。
- ・ハキハキと話せており良いと思いました。語尾の音が一音だけのびてしまっていたり上ずっていたりしたので、直せたらより良くなるのではないかと思います。

〈回答内容について〉

- ・県の教育についてとても勉強しつつ、自らの考えも定まっていた勉強しているなと感じた。また、インクルーシブ教育についても理解していたのも好印象だった。
- ・夏休み中の対応についての質問に対して一生懸命答えていたが、まだ解答の精度を高めることができるだろうという素地がみられた。途中、つまるところがあったが、もう一回質問内容を聞きなおして適切に対応していた。給食時の対応の仕方は良いと感じた。
- ・小学校の先生としてコミュニケーションをよく取ってくれる親しみやすい先生としての回答が一貫して現れる回答だった。
- ・難しい質問が多かったですが、分からなかったところは質問を聞き返し、質問の内容を確認してから答えていて良いと思いました。Aさんらしさがより伝わるように、自身の体験談やボランティア

活動での学びを入れるとよりいいと思います。

#### 2. 学生Bの対策指導の様子

学生Bは、中学校保健体育教諭を志望している学生であり、模擬授業の対策指導を公開で行った。テーマは、ストレスの対処法であり、導入から課題提示まで、板書を行いながら展開した。また、模擬授業後、授業のねらいや課題設定の意図などについて質疑応答があり、落ち着いて回答している様子がみられた。

学生からのフィードバックを一部紹介する。

〈所作について〉

- ・声の大きさや受け答えなど本当に授業をしているようでした。また、文字は大きくてわかりやすかったです。
- ・声量や声の張りなどは十分あってとても聞きやすいと思った。抑揚があって、聞きやすい話し方であったように思う。
- ・板書と発問の切り替え（体の向き）がはっきりしていたので、生徒の見る・聞く・話すのがはっきり分けられ、良いと思った。
- ・しっかり児童生徒の方を向いた授業を行うことができていた。文字の大きさもちょうどよかった。目線は指摘されていたが、Bさんなら意識してできると思いました。

〈模擬授業について〉

- ・個人差について話題にしていたので、ストレスの対処法に関してもっといろんな生徒に聞いて、意見をたくさん書きだしたうえで、こんなにいろいろな方法があるということを強調してもよかったのではないかと。
- ・発問が少し抽象的で難しいものがあるように感じました。また、生徒の発言に対してもう少し「そうだね」だけでなく、会話を広げてよかったのかなと思います。
- ・発問が簡単な所と難しい所があり、難しい所については、もう少し噛み砕いた方が良かったと思った。板書は課題の色分けがされていてとても見やすかった。

### Ⅳ. イベント講座参加者による感想

講座終了後、参加者を対象にアンケートを実施した。講座の内容については、かなり満足と回答した学生が75%、まあまあ満足と回答した学生が25%という結果であった。その理由としては、「客観的に面接をみることで、気づきや自分の面接に生かせることがあったから。」「模擬授業や個人面談はどう

いったものなのか、どのようなことを質問されるのかを把握することができ、また自分も今後教員採用試験に向けて頑張っていこうと思えたから。」などがあった。また対策指導を受けた学生からは、「緊迫した雰囲気の中で出来たというのは良い経験になりました。」「過度な緊張により全体的に上手く話すことができませんでしたが、終わった瞬間緊張から解き放たれ、自分の殻を破った感覚がありました。」などの感想があった。

この結果から対策指導を受けた学生にとっても、見学学生にとっても学びの多いイベントになったようである。

## V. 本講座における成果と課題

本報告書では、本学の採用選考に向けた人物試験対策に関する取り組みについてまとめ、報告した。この取り組みから得られた成果と課題について述べる。

人物試験対策では、採用選考に向け、個人面接や模擬授業及び場面指導等の口頭試問を想定し、口頭試問における自己のアピールや志望動機、面接時の所作等について、実践を通して高めていくことが目的であった。学生は、講座を通して教員としての資質や能力について考え、学生指導や生徒指導に関する知識等を習得し、面接にて適切に受け答えをすることができるようになっていった様子が伺えた。スペシャル講座では、対面形式とオンライン形式を組み合わせで開催したものの対策指導を受けた学生は、自信をつけることができたようである。また、見学学生は、他者の受け答えを見て学び、面接時の所作、質問に対して、自分だったらどのように答えるかを考える機会になったようである。さらに、オンライン形式で開催したことにより、自宅からも参加できたため、時間の都合がつかない学生や遠方に住む卒業生も参加することができた。チャット機能を用いてフィードバックを共有することにより、対策指導を受けた学生へフィードバックの内容を返すことができ、主催側にも記録を残すことができた。ICT機器の活用においても今後の講座形態を考えるうえでよい取り組みとなったのではないかと考えられる。

一方で課題もいくつかあげられる。1点目は、オンライン形式での講座開催は、見学学生が面接特有の緊張感や空気感を感じにくいことである。2点目は、ICT機器やネットワーク等の環境についての課題である。見学学生は、各自の自宅等から接続した

のであるが、ネットワーク環境が整わず、所々接続が切れてしまい大事なところが聞き取れなかったという学生がいたようである。また、講座の様子をビデオカメラを用いて撮影し、Zoomにて公開することは、環境整備や機器の準備、設定等に多くの時間を費やした。今後、オンデマンドを活用した授業や講座は増加していくだろうことを踏まえると学内のネットワーク環境の整備をはじめ、教員、学生のICT機器の活用スキルを高めていくことが重要であろう。

最後に、教員志望の学生は、授業や実習、講座を通して教員としての資質や能力、学習指導や生徒指導等に関する基礎的知識を培っていく。これは、指導書や参考書での学習のみで培うことは難しく、実習や体験活動を通して習得する能力もあると考えられる。様々な学習活動を通して、教職についての学びを深め、教職についた際には、一人でも多くの子どもたちに還元してほしい。